

東洋大学長 殿  
To the President of Toyo University

外国人研究員 研究報告書  
Research Report by Visiting Researcher

氏名 Name	サラ イリナ ファブリカント (Sara Irina Fabrikant)
所属大学名・職名 (身分) Affiliation and position	チューリッヒ大学 (University of Zurich) /教授 (Professor)
研究課題名 Research topic	空間情報ビジュアライゼーションと地理データ解析 (Geographic information visualization and analysis)
研究期間 Research period	2023年9月2日 ~ 2023年11月26日
研究協力教員氏名 (所属) Research partner (affiliation)	情報連携学部 情報連携学科 教授 石川 徹
研究成果発表 (予定も含む) Publication/Presentation (including future ones)	第16回空間情報理論国際会議での研究論文発表 書籍共同執筆 (予定)
研究成果の概要 Summary of your research achievements	(研究協力教員による報告)  スイスチューリッヒ大学教授・サラ・ファブリカント氏は、受入れ教員が担当する情報ビジュアライゼーションに関する学部講義での研究紹介や卒論セミナーでの意見交換なども行い、学生との積極的な交流も進めていただいた。国際会議での研究論文発表および書籍刊行という上記の研究成果の公開予定と合わせ、当初の予定通り3か月の研究期間を有効かつ有意義に活用し、継続的な研究交流につながる成果をあげることができた。
研究の詳細 (600~800字) Detailed Research Report (600-800 words)	(研究協力教員による報告)  スイスチューリッヒ大学教授・サラ・ファブリカント氏は空間情報ビジュアライゼーションと地理データ解析を専門とする国際的に著名な研究者であり、受入れ教員である石川徹とは互いの招待講演の開催や国際会議の共同主催などで継続的に交流を深めてきた。今回、2023年9月から11月の3か月間を研究期間として、ファブリカント氏の専門である地理空間情報ビジュアライゼーションとわたしの専門である空間情報認識を融合させながら、ナビゲーションと空間学習に関する実証研究を進めるとともに、地理空間情報科学における研究法についての書籍の共同執筆作業を進めた。ナビゲーションと空間学習に関する実証研究については、情報空間と実空間が高度に融合した超スマート社会 (Society 5.0) への応用も視野に入れながら、異なる提示法で示されたナビゲーション情報が利用者の空間学習に与える影響について調べるとともに、方向感覚および空間定位に関する人々の思いを述べた記述をテキスト分析することにより、都市空間において自分の位置を知ることについての私たちの感情と意識を明らかにし、方向感覚という概念に関する理論的理解の進展と、ユーザーに合わせたナビゲーション支援情報の開発という応用的課題への実証データ提供を行った。地理空間情報科学における研究法についての書籍については、ファブリカント氏の空間情報視覚化に関する

	<p>る専門知識と、わたしの英文著書（<b>Human Spatial Cognition and Experience, Routledge, 2020</b>）の内容を発展させながら共同での執筆を進めている。</p>
--	--